

# ReBOSSIS-J<sup>®</sup>

## CLINICAL CASE REPORT

### 久留米大学医学部整形外科教室 整形外科 横須賀公章 先生

#### 略歴

2002年 久留米大学病院整形外科 入局

2003年 門司労災病院整形外科 勤務

(現：独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院 門司メディカルセンター)

2008年 永田整形外科病院 院長

2014年 済生会福岡総合病院整形外科 部長

2017年 久留米大学病院整形外科 医局長

2019年 久留米大学病院整形外科 講師

#### 専門医・認定資格

医学博士 (久留米大学大学院医学研究科先進医療対象疾患学)

日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄専門医

日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医、日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

日本リハビリテーション医学会認定臨床医



## MIS-PLIFの椎体間骨移植に、綿形状人工骨ReBOSSIS-Jを使用した症例 (60代)

### 要旨

当院初診時、患者は腰臀部痛に加え、両下肢の疼痛及びしびれ、筋力低下を呈し、間欠跛行は3分以内と短縮していた。腰椎単純X線撮影では腰椎全体の高度変性変化を認め、特にL4/5椎間においては不安定性 (instability) が明らかであった。さらに腰椎MRI検査では同部位に高度な脊柱管狭窄を認め、馬尾神経および神経根への圧迫が示唆された。術前のJOAスコアは12/29と著明に低下していたため、外科的治療の適応と判断した。

手術は最小侵襲後方腰椎椎体間固定術 (MIS-PLIF) を選択し、正中縦切開による片側進入・両側除圧を行った。固定は経筋膜的に経皮的椎弓根スクリュー (PPS) を挿入し、椎体間骨移植には局所自家骨とReBOSSIS-J 1.5g を併用した。術後1年間の経過観察において、JOAスコアは28/29に改善し、X線画像ではインプラントの破損やゆるみは認められなかった。さらに腰椎単純CTにて移植骨の良好な定着と骨癒合が確認され、神経症状の再発もなく、日常生活動作 (ADL) は著明に改善していた。

### 初診時所見



- 左：腰椎単純MRI,T2撮影  
L4/5に高度の脊柱管狭窄を認める。  
右：腰椎レントゲン撮影正面  
高度な腰椎変性を認める。



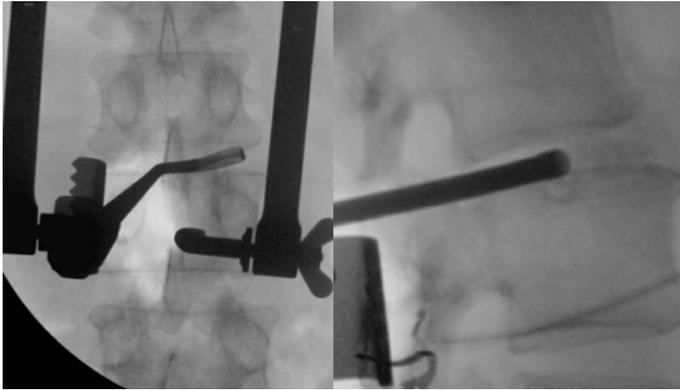
腰椎レントゲン動体撮影でinstabilityを認める。

販売名：レボシス-J  
医療機器承認番号：30300BZX00095000  
承認年月日：令和3年3月29日  
一般的名称：吸収性骨再生用材料



# 症 例 写 真

## 手術所見



左：反対側までの十分な椎間板搔爬  
右：椎体前方への十分な骨移植

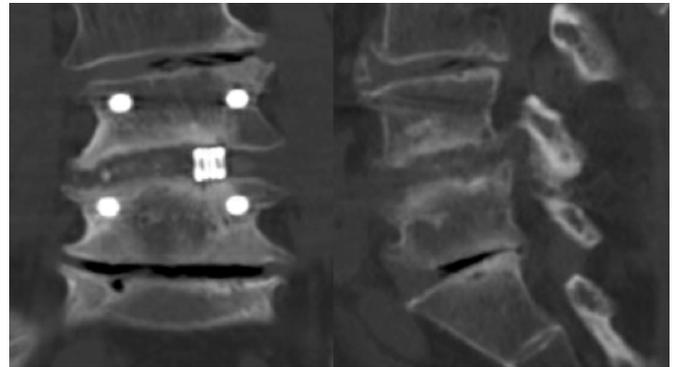
綿形状人工骨



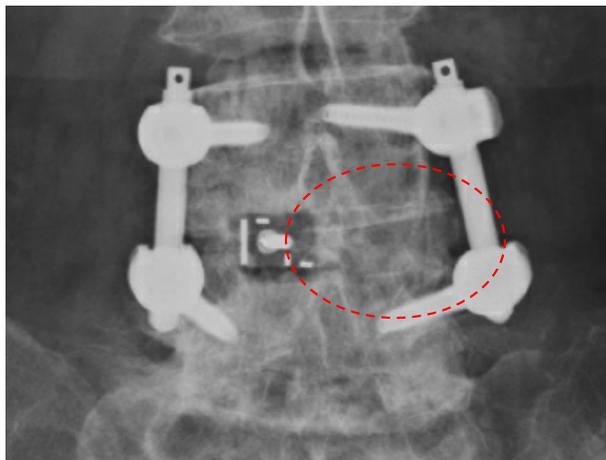
## 腰椎レントゲン画像（術後1年）



## 腰椎CT画像（術後1年）



## 86歳女性 MIS-PLIF（術後3年）



JOA score24 (2-2-2, 2-2-2,12)

販売業者

製造販業者

**ORTHOREBIRTH株式会社**

〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央15-3  
TEL (045) 532-3650 FAX (045) 532-3691

販売名：レボンス-J  
医療機器承認番号：30300BZX00095000  
承認年月日：令和3年3月29日  
一般の名称：吸収性骨再生用材料



資材番号 L129-01